

令和4年度  
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和4年8月25日

三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 所属機関（国）：Ministry of Health, National Heart Hospital (Zambia) 職名：Consultant Anesthesiologist, Head of Cardiac Anesthesia and Critical Care: 氏名：Jane Chanda Kabwe
2. 受入研究者 所属・職・氏名 医学系研究科・医学医療教育学 堀 浩樹 医学系研究科・麻酔科学 賀来隆治 (受け入れ担当) 附属病院小児科 澤田博文
3. 招へい期間 令和 4 年 7 月 20 日 ~ 令和 4 年 8 月 20 日
4. 活動実施の内容とその成果 (注) 任意の形式 (ただしA4サイズ) にて作成したものを添付してください。写真等の記録も添付してください。

## 1. 被招へい者の紹介

Jane Chanda Kabwe 先生は、現在ザンビア大学関連病院 Ministry of Health, National Heart Hospital の麻酔科部門長であり、ザンビア大学在職中には、本学医学科生の海外実習での指導を担当し、2016年から2020年まで三重大学医学部麻酔集中治療学に文部科学省の奨学金を受け研究留学していました。本学大学院在籍中は、Teaching Assistantとして医学部での教育にも携わりました。

## 2. 活動日程

7月20日東京（成田）着 宿泊

7月21日 三重大学（三重県津市）に到着

慢性疾患患児・家族宿泊施設「三重ファミリールーム」（所在地：郵便番号514-0001 三重県津市江戸橋2丁目99）に滞在。（利用状況に空室があり、運営委員会の許可を得て利用）

7月22日 15時 堀医学研究科長に面会（医学医療学分野教授室）

16時 麻酔科学 賀来教授に面会（麻酔科医局）

受け入れに関する諸手続き（総務課）

7月25日 小児循環器研究室（担当：澤田博文）：研究教育についての意見交換 大学院生指導

7月25日 鈴鹿医療科学大学 丸山教授を訪問：研究教育活動（特に三重大学と鈴鹿医療科学大学との共同教育プログラムでの講義）について打ち合わせ

7月26日 皮膚科 山中恵一教授を訪問：教育研究について意見交換

7月27日 組織学 後藤英仁教授を訪問：教育研究について意見交換

7月27日 麻酔科学医局にて肺高血圧研究についてセミナー（対象：麻酔科学教員・研修医・医学科学生）

賀来教授、麻酔科スタッフ、研修医と意見交換

8月2日～5日：附属病院：麻酔科研修医への指導（麻酔科学 賀来教授）

手術麻酔での学生教育について賀来教授、麻酔科スタッフ、研修医と意見交換

8月6日～7日：三重大学医学部教育プログラム参加し、医学部学生への講義への講義を行う。「医学部サマープログラム ～海外実習の再開を目指して～」

8月17日～19日：鈴鹿医療科学大学での慢性疼痛マネジメント教育プログラムに参加し、本学医学部学生、鈴鹿医療科学大学学生に講義を行う。

8月20日：三重大学（三重県津市）を出発

8月21日：ルサカ市、ザンビア着

## 3. 医学部での教育活動への参加

(1) 8月6日～7日：三重大学医学部教育プログラム参加、医学部生への講義

「医学部サマープログラム ～海外実習の再開を目指して～」

本プログラムには、三重大学医学部医学科から会場とオンライン合わせて44人が参加した。Kabwe氏は、医学部海外臨床実習の紹介（堀医学研究科長）に続き、「ザンビアの医療事情」として講演した。ザンビアと日本など先進国との医療事情の違い、ザンビアでの医学教育や海外臨床実習の実際に加え、ザンビアの豊かな文化や自然などを紹介した。今回、5名の海外からの講演者の中でただ一人の対面での講演であった。続いて行われたワークショップでは、「①海外臨床実習をデザインする、②海外実習での感染対策・危機管理を考える」のテーマで、参加学生との意見交換に加わった。

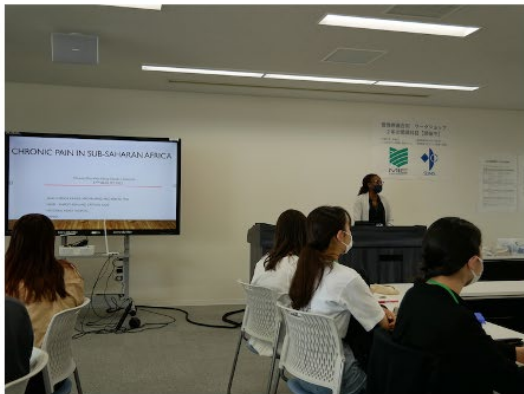
(別紙資料1:プログラム)



(2) 8月17日～19日：三重大学・鈴鹿医療科学大学合同教育プログラム

「2022年度 慢性疼痛チーム医療者養成プログラム」鈴鹿医療科学大学白子キャンパス  
本プログラムには、三重大学医学部医学科と看護学科から20人（いずれも2年生）と鈴鹿医療科学大学の全学科から45人が参加した。Kabwe氏は、プログラムの冒頭、鈴鹿医療科学大学丸山一男特任教授の「痛みの考え方」の講義に続き「アフリカの医療と慢性疼痛」と題し、講義を行った。ザンビアの医療事情や慢性疼痛の民族的な違いなどについて述べられ、疼痛管理について国際的視点からの新たな学びとなった。また、筋柔軟性、はり、きゅうなどに関する小グループでの実習に参加し、学生との交流の機会となった。

(別紙資料2：プログラム、資料3：新聞報道)



#### 4. 招へいの成果、効果：

2年余りのコロナ禍では、海外臨床実習などの国際交流の機会が減少し、本学の医学教育も大きく影響を受け、実際、在学生や卒業生から、この2年間海外実習が実施されなかったことが残念であったという声も多い。現在、Covid19 パンデミックが収束しない中でも、グローバル社会の中では国際的な人の往来が再開されつつあり、医学教育でも遅れることなく国際交流再開へ向けた議論が必要と思われる。今回参加したほとんどの医学部学生からは、海外実習再開を望む声が聞かれ、ワークショップでは、海外渡航に向け、異文化を理解することや英語でのコミュニケーションなどの準備に関する意見に加え、安全面や感染対策など、現状を直視しての議論も展開された。また、新興感染症の驚異や不安定な経済などの社会情勢の中で、実際に海外から外国人教員を招へいたことで、本学学生の海外渡航や提携大学からの学生受け入れ時の、課題についても検討することができた。

これらの医学部教育活動の参加に加え、Kabwe 氏の医学部附属病院での麻酔科臨床における交流や鈴鹿医療科学大学と合同での慢性疼痛に関する教育活動への参加は、三重大学医学部とザンビア大学の大学間協定に基づく今後の交流の新たな展開につながると思われた。



## 医学部サマープログラム ～海外実習の再開を目指して～

### Summer Program in Mie University Faculty of Medicine

#### - Toward re-starting international health electives after COVID-19 pandemic -

日時：8月6日（土）、7日（日）

会場：COVID19の流行拡大のため、ハイブリッドでの開催に変更します。

対面での参加も当初案通り行います。会場：臨床第一講義室

対面での参加者には、お持ち帰りの軽食を準備します。

対象：医学部医学科学生（事前申込制）

定員：対面は50名程度、オンライン（Zoom）は制限なし。

実施主体：医学部医学看護学教育センター国際交流部門

運営：教員、教育センター事務職員、学生ボランティア

実行委員：成島三長、澤田博文、島本 亮、櫻井洋至、堀 浩樹

### 1日目プログラム

13:00-13:15 ご挨拶

堀 浩樹・三重大学医学部長

13:15-14:00 医学部海外臨床実習の紹介

司会：成島三長

堀 浩樹・三重大学医学部医学看護学教育センター

14:15-15:15 講演会「ザンビアの医療事情」

司会：澤田博文

Jane Chanda Kabwe 先生・Ministry of Health, National Heart Hospital

15:15-17:00 ワークショップ

① 海外臨床実習をデザインする

② 海外実習での感染対策・危機管理を考える

数名のグループによるグループワークと発表会（ファシリテーター：教員、留学生）

## 2日目プログラム

9:00-10:00 海外で働く先輩によるオンライン講演会

「私の歩んできた道」

司会：堀 浩樹

Dr. Takaya Moriyama・Associate Director, Oncology R and D at Daiichi Sankyo, Inc., USA

10:15-11:50 海外実習参加者による体験談

① 米国・ワシントン大学（15分）司会：島本 亮

篠田真理先生・三重大学医学部附属病院呼吸器外科

② タイ・コンケン大学（30分）司会：櫻井洋至

Dr. Jutarop Phetcharaburanin・assistant Dean for research and International Affairs, Khon Khaen University

貝沼由美先生・三重大学医学部附属病院循環器内科

Dr. Kringsak Khamloy・コンケン大学チーフレジデント

③ イタリア・ペルージャ大学 & タイ・タマサート大学紹介（20分）司会：櫻井洋至

Dr. Stefano Lucentini・ペルージャ大学

Dr. Yanisa Kongthapham・タマサート大学

④ フィリピン・フィリピン大学レイテ校（15分）司会：堀 浩樹

向原千夏先生・滋賀家庭医療学センター

⑤ ガーナ・ガーナ大学（15分）司会：堀 浩樹

栗原康輔先生（三重県立総合医療センター・小児科）

11:50-12:00 総括

西村有平：三重大学医学部教務委員長

12:00-12:30 個別相談

## 2022 年度慢性疼痛ワークショップ日程表

8月17日(水) @ 鈴鹿医療科学大学白子キャンパス 1号館

司会：(荒井)

時間	内容	担当	場所	備考
8:00～8:30	集合 準備開始			12 グループでセッティング
8:30～9:00	受付	TA+職員	7階ホール	
9:00～9:10	開講挨拶	堀医学部長 (三重大学)	1701 室	
9:10～9:40	オリエンテーション ミニレクチャー (講義) ー痛みについて・アフリカの医療と慢性疼痛ー	丸山 (一)・ Jane Chanda Kabwe .M.D		
9:45～9:55	事例の紹介	伊藤	1701 室	〃
9:55～10:15	アイスブレイク	伊藤		
10:15～10:30	休憩・体験ブース設営			
10:30～12:00	各種体験 Part 1 (痛みの評価→筋柔軟性→鍼→灸→筋ロコモ→マインドフルネス) 30分×3ブース	田中、鈴木、長岡、伊藤、向井、横地、奥野、上條、ほか	1701 室+廊下	体験ブース
12:00～13:00	昼休憩			3階 01・02・03 に分散
13:00～14:30	各種体験 Part 2 (痛みの評価→筋柔軟性→鍼→灸→筋ロコモ→マインドフルネス) 30分×3ブース	田中、鈴木、長岡、伊藤、向井、横地、奥野、上條、ほか	1701 室+廊下	体験ブース
14:30～14:45	休憩・グループ型式に設営			
14:45～16:15	チームについて①	河尻・荒井	1701 室	12 グループ型式
16:15～16:25	振り返り・アンケート記入			
16:25～16:30	解散			
16:30～16:50	教員スタッフ 振り返りの会		1608 室	
16:50～	片付け 翌日準備			

8月18日(木)

司会：( 荒井 )

時間	内容	担当	場所	備考
8:30～	集合 準備開始			
8:45～9:00	受付	TA	7階ホール	
9:00～9:10	チェックイン①	船尾・上條	1701室	12グループ型式
9:10～9:20	チェックイン②			
9:20～10:50	チームについて②			
10:50～11:00	休憩			
11:00～11:20	福祉（講義）	菅原	1701室	20分
11:20～12:00	薬膳（講義）	高木		40分
12:00～13:00	昼休憩		3階01・02・03に分散	
13:00～15:10	理学（講義・ストレッチ）	浅田・伊藤	1701室	ヨガマット型式にセッティング
15:10～15:20	振り返り・アンケート記入			
15:20～15:30	設営 12グループ型式にセッティング			
15:30～	学生サポーターとの交流	学生サポーター・TA	1701室	20～30分予定
15:30～15:50	教員スタッフ 振り返りの会		1608室	
解散				
15:50～	片付け 翌日準備			

アンケート記入後の作業：学生にヨガマット清拭、グループ型式への設営を指示する。

8月19日(金)

司会：( 荒井 )

時間	内容	担当	場所	備考
8:30～	集合 準備開始			
8:45～9:00	受付	TA	7階ホール	
9:00～9:10	チェックイン	伊藤・船尾	1701室	
9:10～12:10	事例検討			
12:10～13:10	昼休憩		3階01・02・03に分散	
13:10～15:20	事例検討	伊藤・船尾		
15:20～15:35	事例の解説	横地	1701室	15分
15:35～15:50	事例検討まとめ	伊藤・船尾		
15:50～16:00	全体コメント	丸山(一)		10分
16:00～16:10	閉講挨拶	豊田学長		10分
16:10～16:20	振り返り・アンケート記入			
16:20～16:35	写真撮影		1701室	15分
16:35～17:00	教員スタッフ 振り返りの会		1608室	
17:00～	片付け			現状復帰

\*プログラム中は、適宜休憩時間があります。

## チーム医療を学ぶ

鈴鹿医科  
大と三重大  
痛み治療の合同授業

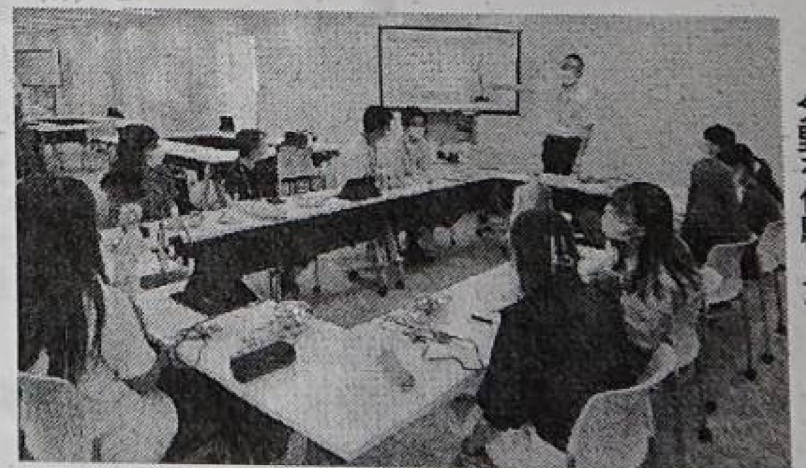
【三重】鈴鹿医療科学大 治療に関わるチーム医療を学・白子キャンパス(鈴鹿市南玉垣町)で17日、痛みと三重大大学の合同授業。19

日までの3日間で各専門分野の知識・技能の共有や、事例をもとに多職種医療チームによる支援策を考えるシミュレーションを実施する。

同授業は「慢性疼痛(とうつう) チーム医療者養成プログラム」として2017年度にスタートし、6年目を迎えた。20、21年度はオンラインで実施しており、対面開催は3年ぶり。

鈴鹿医療科学大の全学科から合わせて45人、三重大は医学部医学科、看護学科の計20人、いずれも2年生が参加した。

授業の冒頭、三重大の堀浩樹医学部長が「これから医療、福祉の実践では多



合同授業では、各専門分野を体験した

職種連携が極めて重要になる。今回、異なる学部・学科の学生により構成されたグループでのグループワークが予定されている。多職種連携に求められる能力を習得する機会になる」とあいさつ。続いて、鈴鹿医療科学大の丸山一男特任教授が「痛みの考えかた」、医学博士のジェーン・チャンダ・カブウエ氏が「アフリカの医療と慢性疼痛」のテーマで講義を行った。

その後、学生はグループに分かれ、痛みの種類を評価するための患者とのコミュニケーションセッションスキルほか、筋柔軟性、はり、きゆう、筋口コモ、マインドフルネスの6種の専門分野を体験した。